

問「肥満の漢方治療とはどのようなものですか？」④

答 肥満の漢方治療について、お話を続けます。表の「水太りタイプ」の二番目、越婢加朮湯(えっぴかじゅつとう)についてお話します。

表 肥満の頻用処方

固太りタイプ	防風通聖散、大柴胡湯、大承気湯
水太りタイプ	防已黄耆湯、越婢加朮湯、九味檳榔湯
瘀血を伴う場合	桃核承気湯、桂枝茯苓丸
気逆・気鬱を伴う場合	柴胡加龍骨牡蠣湯、桃核承気湯、加味逍遙散、抑肝散、半夏厚朴湯

(日本東洋医学会、「漢方医学テキスト」)

越婢加朮湯は、漢方の重要な古典である「金匱要略(きんきょうりやく)」に登場します。構成生薬は、麻黄(マオウ)、石膏(セッコウ)、生姜(ショウキョウ)、大棗(タイソウ)、甘草(カンゾウ)、白朮(ビャクジュツ)です。

麻黄、石膏、生姜、大棗、甘草の組合せで「越婢湯(えっぴとう)」というお薬になります。越婢湯は、金匱要略の「水気病(すいきびょう)」という、水の流れが悪くなって生じる病に対する治療法として登場します。「寒気がして、からだ中がむくみ、のどは渇かず、汗が自然と出て、あまり発熱していないときに使用する」と記載されています。

浮腫喘咳  
心膈伏熱  
水腫上焦  
脚弱膝酸



106

越婢湯の證  
(真二編下巻)

部位表位  
集而上

図は江戸時代に出版された「腹證奇覽翼(ふくしょうきらんよく)」に掲載されている、越婢湯の腹証図です。胸の前面に所見があります。ここに熱がこもっているのですが、同時に、水の流れが悪くなっていて、からだの表面がむくんでいます。からだの表面が水びたしになっていますから、寒気がします。また、水が少なくなつてはいませんから、のどは渇きません。からだの表面の水を処理するために、自然と汗が出ています。確かに熱がこもっているのですが、むくんでいるため、外から体温を測定しても、さほど高い熱ではないのです。越婢湯は、麻黄と石膏が主役で、麻黄が、からだの表面のむくみを、汗として排出します。石膏が熱を冷まします。この越婢湯に白朮を加えたのが「越婢加朮湯」です。白朮は、お臍と胸の間あたりのむくみをとります。要するに、越婢湯は主に上半身のむくみと熱に有効ですが、それに加えて、お腹のむくみにも有効なのが「越婢加朮湯」です。